第２号

『エピソードトーク』

Ｒ６．２．２

最近、生成ＡＩに興味があります。自分でも何度か質問し、その回答に「すごい！人間が答えてくれる以上に的確な答えだ。」と思ったり、「なんだ、そんなに大したことないな。」とがっかりしたり。おそらく、大したことのない回答の原因は、質問の仕方が悪かったことにあるのでしょう。この先、質問の仕方が悪くても意図を読み取り、適切な答えを返してくれるようになるのかもしれません。

話は変わりますが、先日、本校の伝統である「意見作文発表会」がありました。各学年から代表者が２名ずつ自分の意見を発表します。どの発表も説得力があり、胸に迫るものがありました。中学校生活を送る中で感じたこと、学級で自分が担った役割、家族のこと、はたまた意見作文を書くにあたって思ったことなど、様々な発表に「みんなよく考えているなあ。」と感嘆しました。

なぜ、こんなにも心打たれる発表なのだろうと振り返ってみると、あることに気付きます。それは、どれもみなエピソードトークであるということです。体験したこと、自分に降りかかった状況、様々なエピソードを基に自分が考えたことを発表しているので説得力があるのです。

生成ＡＩに「社会に学ぶ『１４歳の挑戦』」で得られることは何ですか？」と質問したら、きっとすらすらとその効果について答えてくれることでしょう。しかし、１４歳の挑戦で得られたＡさんの気付きや学びはＡさんだけのものであり、何物にも代えがたいものだと思います。

生成ＡＩはいろんなことに応えてくれ、便利な世界が訪れるのかもしれませんが、子供たちが「生きる」中で出遭ったり体験したりすることから得られた様々な気付きや学びを大事にしてほしいと願っています。

こんな寒い朝は霜柱ができていたよなあ、と探してみたら生徒玄関前の花壇で見付けました。

小石を霜柱が持ち上げて、家のようになっています。